

管 理

梅雨期前後の養鶏メモ

鶏にとっては、春の産卵最盛期を過ぎ、体力が消耗しかけているときであるのに、高温多湿な梅雨期がくるので全くありがたくない季節といえます。

管理の要点

- 1、この時期には、バタリー、ケージは勿論のこと、鶏舎全域にわたって乾燥させることが大切。
- 2、梅雨期にはいと飼料の摂取量が低下し易いからなるべく多く喰べさせるよう仕向ける。このためには手数はかかっても、給餌回数を多くするのもよろしい。
- 3、鶏が運動場で土と糞と、泥水で汚れた脚で鶏舎に出入りするから、鶏舎の中が汚れ勝ちで、鶏卵も汚れ易いから、床面はたえず清潔にすると同時に、運動場の排水をよくすること。
- 4、この頃の換羽休産鶏は、長い間休産するから駄鶏として淘汰した方がよろしい。

- 3、不良雛（畸型、発育不良、病弱なもの）は、50日令、100日令前後に思いきって淘汰をおこない、雛の大、小により区分して管理をするのがよろしい。
- 4、換気不良、密飼、過剰光線、飼料給与時間の不規則、給与量の不足、飼料配合の不適當の場合は、カンニバリズムが出易いから注意を要します。
- 5、コクシジウム症の最も発生し易い季節であるから、とくに平飼飼育では薬剤による予防も実施することが必要です。
- 6、鶏痘予防接種は、昨年秋以降にふ北した鶏については全部実施しなければならないが、予防接種時期は、蚊の発生する三週間前に実施する必要があり、本県では五月中旬から、六月上旬頃までには終る必要があります。

(養鶏試験場 岩本技師)

育雛管理の要点

今年春餌付した雛は今頃が中雛期又は、大雛期で管理に注意を要する時期です。

- 1、中、大雛期は発育が旺盛であるから育雛施設は適度の広さをとり、密飼いにならないようにします。
- 2、雛の移動前には、収容場所は完全に消毒すること。とくに、連続育雛の場合はコクシジウム症、ジフテリア症が発生し易いから完全な消毒が大切

日令別床面積と収容羽数の関係

日令	3.3平方メートル (1坪) 当り収容羽数
30日	60羽
40	50
60	40
90	30
100	20

コクシジウム症の予防剤

薬 品	特 性	与 え 方	投 与 期 間	投 与 量
フ ラ シ ン	予防効果、毒性共に低い長期投与可	飼料に混合	●●●○○○ ●●●繰返す	1.0%
ナイトロフェナイド	同 上	同 上	連 用	0.05%
ナイカルバジン	予防効果は強いが産卵に悪影響あり 17週令以降投与不能	同 上	同 上	0.0125%
グリカマイド (アンプロール25%)	予防効果はもっとも強い、毒性は低 く産卵に影響なし	同 上	同 上	0.003~0.008%
アンプロリウム	同 上	同 上	同 上	0.016~0.05%